

【授業の概要】

言葉と思考、言葉と環境との関係について認識を深めながら、文化財、障害、文字などの具体的な問題にまで踏み込んでいく。

【授業要旨】

回数	大項目	小項目	授 業 内 容 (留意点、テスト、レポート、作業、参考文献、教材等)
第1回	言葉を考える	言葉とイメージ	人間は考えるときに言葉を用いる。しかし、明確に言語化された状態で考えるだけでなく、漠然と曖昧に考えることも多く、その際イメージを用いる。このように、考えることにおける言葉とイメージの関連について学ぶ。
第2回		見立てと思考力	言葉で考えるということと密接な行為が、子どもにおける「見立て」である。ここでは、見立てることと思考力の発達について、ごっこ遊びを中心に考えながら学んでいく。
第3回		言葉と思考の関係	言葉と思考の関係は古くから議論されているが、現在でもまだ明確な結論は出ていない。ここでは、そのような議論をいくつか紹介しながら、人間が言葉で考えるということはどういうことであるのか、ということについて考察する。
第4回		人的環境 養育者とのかかわり	言葉を獲得するのは子ども自身であるが、その子どもの発達、環境とのかかわりを通じてなされる。その環境の第一義的に重要なものは「人」である。そこでまず、子どもが最初に出会う養育者について考えていく。
第5回	言葉と環境	人的環境 家族とのかかわり	子どもは、家庭の中で育っていく。家族とのかかわりが、子どもの言葉の発達とどうからんでいくかを、ここでは学ぶ。
第6回		人的環境 子ども同士のかかわり	乳児段階を終わるところから、子どもは同じ子どもとのかかわりを好むようになる。そのかかわりを通して、言葉—特にコミュニケーション—が発達していく筋道について理解を深める。
第7回		人的環境 保育者とのかかわり	保育環境は、現代における子どもを取り巻く環境の中でも、家庭環境に次いで重視されなければならない環境である。その中でも、保育者とのかかわりが、子どもの言葉の育ちに深く関連していることを理解する。
第8回	物的環境 —文化財—と言葉	物語について	子どもにとって、物語は親しいものである。同時に、物語そのものに、子どもの心を育む力が備わっている。その物語の力を、昔話、グリム童話などの古典を通して、分析し、理解する。
第9回		絵本、紙芝居	物語の良さは、どのように子どもに提示されるかということとかわる。保育者が、絵本、紙芝居を取り扱うについて、常に配慮しなければならない基本姿勢を、ここでは学ぶ。
第10回		劇遊び	行事でよく取り上げられる劇遊びは、行事のためのものであってはならない。劇遊びが子ども主体でなされるために必要な保育姿勢は何か、という点について理解を深める。
第11回	文化財以外の物的環境と言葉	視聴覚機器とその他の環境	保育は、保育者という人間によって成立する。機械に保育はできない。この原則に則り、保育の中で視聴覚機器を使用することの意味と、マイナス面の影響について学ぶ。
第12回	気になる言葉	言葉の障害	言語障害にはいくつか種類がある。それらについての基本的な理解と対応の仕方について理解する。
第13回		発達の遅れと言葉	発達障害は、必然的に言葉の遅れをもたらすが、それは言語障害による言葉の遅れとはまた異なる意味合いを持つことを学び、障害をそのまま受け止める保育者の在り方について理解する。
第14回	書き言葉	文字のある生活環境	子ども自身は文字の読み書きをしなくても、子どもの周りには文字が溢れている。そのような生活環境と、文字を大切にす文化について理解する。
第15回	まとめ及び評価	まとめ及びテスト	

【評価の方法】出席、授業態度、レポート、試験等によって行う。

【テキスト】